



日刊 動力労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

9/3/8 No. 3362

※ 津田沼運転区運転士組合別内訳				
	現在	配転数	組合別%	3/16以降
動力千葉	35名	20名 (69%)	57%	15名
国労	23名	4名 (14%)	17%	19名
鉄産労	12名	3名 (10%)	25%	9名
JR東労組	20名	1名 (3.5%)	5%	19名
全動労	1名	1名 (3.5%)	100%	0名
計	91名	29名 (100%)		62名

諸要求の解決へ、重ねて(3/7) 申第21号で申し入れ

1. 動力車乗務員の交番について

- (1) 「基本的な交番作成の考え方に則り」とは何か。具体的に明らかにされたい。
- (2) 交番順序変更のような、要員上も作業上も何ら困難性がなく、他支社では、変更に応じている事項まで、千葉支社においては、「一切変更することはできない」とする理由を明らかにされたい。
- (3) この間、動力千葉申第13号および17号にもとづく問題点をすみやかに解消されたい。

2. 高齢者対策について

- (1) 高齢者対策については、「55才原則出向」以外に具体的内容が何も示されていない。千葉支社が「出向先の充実、拡充」で問題が解決すると思えるならば、
 - ① 年次別の55才到達者数
 - ② 出向先の具体的内容と受入れ可能数等、具体的議論の素材を提起されたい。
- (2) 現在、JR千葉支社社員の年齢構成の中で、45才前後を中心とした社員が多数いる状況下において、特に動力車乗務員の高齢者対策は緊急を要する課題である。
 - ① 現在、高齢者が担当している内、外勤等を助役化、限定免許化などの計画を中止されたい。
 - ② 乗務員として永年培った技術力を生かした検修職への道筋を確立されたい。

3. 強制配転者について

この間、強制配転者の原職復帰を希望している者および運転士資格保有者で未登用の者の運転士登用について、今後の具体的道筋を明確にされたい。

4. 今次「ダイ改」に関連して、津田沼運転区からの配転の事前通知が行われたが、他労組の組合員に比して、動力千葉の組合員の比率が非常に高く、しかも、支部役員・活動家を中心に行われている。

これは、動力千葉の組織破壊を目的としたもので、明確な組合差別であり到底容認できない。
今次、配転の内容および専任の基準、根拠を具体的に明らかにされたい。

5. 成田エクスプレスについて、次期ダイ改に向けて次のことを検討されたい。

- (1) ラッシュ時の列車設定は行わない。
- (2) 成田駅および千葉駅を停車とする。
- (3) 編成両数を増やし、半分を自由席とする。

以上

津田沼運転区で事前通知 役員・活動家を中心に

支部破壊を許すな!

JR東日本千葉支社は、三月五日から津田沼運転区において、三月一六日付の配転の事前通知を開始した。具体的にあきらかになった数は、別表のとおりだが、小倉支部長をふくむ動力千葉津田沼支部組合員が、その圧倒

的多数を占めるという、あきらかに動力千葉つぶしを狙った不当なものであり断じて認めることはできない。

これは、配転者のなかの動力千葉組合員の占める割合がじつに三分の二以上の六九%にもなることと、新設される習志野運輸区のうちでは動力千葉を少数派にするつもり、あらたに加わる車掌を加えてJR東労組が三六協定締結権を握るとい

う、いわば「京葉運輸区」化を狙った攻撃にほかならない。われわれは、今次ダイ改で提案された津田沼運転区廃止—習志野運輸区新設が、動力千葉と国労の解体攻撃であると主張してきたが、三二〇キロにもおよび中野運輸区への大幅な業務移管とともに、この攻撃は旧「国電区間」から動力千葉の影響力を徹底して排除する狙いがこめられている。

「(千葉から東京への)業務移管は、国鉄改革の積み残し」なるJR総連の攻撃が、JR総連改革マル分子の発言は、この攻撃が、JR総連改革マルとJR東日本当局との結託した動力千葉根絶攻撃の一環であることをさし示している。これは、本来なら八七年四月時点には終了していなければならぬはずの業務移管=動力千葉の排除が、われわれの闘い、とりわけ分割・民営化反対のストライキをはじめ、一昨年の十二・五スト以降の連続した闘いのなかで、今日まで延び延びになってきたことに対するアセリといらだちがJR総連改革マルやJR当局のなか

津田沼運転区から他運転区への配転数	
千葉運輸区	18名
国労運輸区	5名
鉄産運輸区	3名
JR東運輸区	2名
全動運輸区	1名

あるからなのだ。多くの解雇者や被処分者をだしながらも、動力千葉の闘いの先頭にたつてきた津田沼支部の存在と闘いが、JR当局やJR総連にとつて、もはやガマンできないところまで追いこんできているのだ。さらに西鉄労脱退問題をはじめ、ついに噴出しはじめたJR総連の危機と矛盾が、今回の攻撃の根底にある。

今回の配転攻撃による津田沼支部解体攻撃を許さず、組織強化と闘争体制をより強固にうちかためて、さらに第二波ストライキにたちあがろう。